

# 下田市庁舎移転計画 (旧稲生沢中学校改修 + EV 棟新築)

本計画は、老朽化と津波リスクを抱える旧庁舎を移転し、中学校の統廃合によって廃校となった下田市立旧稲生沢中学校を改修して新たな行政拠点としてコンバージョンする計画である。分散されていた庁舎機能の集約により行政運営を効率化し、市民サービスの向上を図るとともに、防災拠点として災害時の行政継続性を確保する。

計画地は静岡県下市内陸部の稲生沢地区で、市街地中心部からのアクセス性が良く、標高が高く安定した地盤を有することから、安全性の高い立地として選定された。さらに、修善寺から蓮台寺まで延伸予定の伊豆縦貫自動車道との連携強化も視野に入れ、下田市が伊豆地域全体の行政ネットワークを再構築する拠点となることを期待している。

既存校舎を活かし、解体・新築に伴う CO<sub>2</sub>排出量や建設費を抑制すると共に、かつての学校のように世代を超えて地域に親しまれる庁舎を実現する。中学校統合により廃校となった校舎を有効活用する本計画は、少子高齢化や人口減少といった地方都市が抱える課題に対し、持続可能な公共施設の既存ストック再生のモデルとなることを目指している。





本計画は、市が策定したマスタープランに基づく庁舎整備事業の一環であり、新築棟・活用棟（旧稲生沢中学校改修）・屋内広場（旧体育館改修）の三つの建築から構成される。それぞれが動線を共有し、連続する庁舎群として一体的な景観を形成する計画となる。本プロジェクトはその中の活用棟に該当し、新築棟や旧体育館棟と連携しながら、旧校舎の風景を引き継ぎつつ、新しい庁舎としての機能と景観を両立する空間を創出した。既存資源と新たな要素を融合させることで、地域の記憶を継承しながら未来へとつなぐことを目指している。

学び舎を活かした庁舎は、市民が立ち寄りやすく身近に感じられる場であり、学校の面影を残した穏やかな内外の空間は、市民に親しまれる庁舎として再生している。また、庁舎機能を集約し、行政手続きをワンストップで行える効率的な運営を目指す。稲生沢川の洪水氾濫想定区域に位置することを踏まえ、2階以上に主要庁舎機能を配置するとともに、重要インフラ設備は架台を設け、浸水想定高さよりも高い位置に設置することで、防災拠点として災害時にも行政機能を維持できる計画としている。





## 1F まちのホール

1階には地域に開かれた「まちのホール」を設け、市民が自由に出入りできるオープンスペースとした。南北に貫通する通り抜けホールは、人が行き交いながら自然に立ち寄れる動線を形成しており、マスタープランに基づく重要な軸線として位置づけられている。北側デッキ広場と南側公園の並木道をつなぐことで、屋内外の活動が緩やかに連続し、庁舎全体に回遊性をもたしている。かつて中学生を迎え入れた昇降口や通用口を活かし、校歌の歌詞を刻んだボードや学校の銘板も残すなど、かつての学び舎の記憶を新しい庁舎に継承している。

天井を撤去して高さを確保した空間には、構造体に刻まれた時間の痕跡が現れ、建物の歴史を感じ取ることができる。古いものを新しいもので覆い隠すのではなく、既存の素材や空間に手を加えながら再生させることで、建物がまちの記憶を受け継ぎ、次の時代へとつなぐ存在となっている。かつての学校の面影と、新しい庁舎の機能が寄り添うことで、地域に親しまれる「まちの玄関口」となり、人と人、人とまちをつなぐあたたかな場を生み出すことを期待している。1Fに集約した地域の為の機能が、市民の暮らしの場と重なり地域共生社会の実現につながることを期待している。



まちのホールより、通用口を見る。通り抜けられる空間とすることで、計画全体の回遊性を高める。



現しとなった構造体からは、経過した時間や建物の歴史を感じ取ることが出来る。



玄関と廊下を見る。玄関は将来完成する新築棟との連絡に使用される。



卒業記念品は掲示板へ転用するなど、学校の風情を残している。



●改修前内観 (昇降口)



● 4F：議場（傍聴席）



● 4F：議場



● 2F：応接室



● 3F：建設課



● 2F：副市長室



● 2F：産業振興課・観光交流課



● 1F：多目的会議室



● 1F：多目的会議室

